



「社会福祉法人」

大分いのちの電話通信

相談電話 097-536-4343

第109号 2022年4月1日

■ 発行人 理事長 金子進之助 ■ 編集人 編集委員会
■ 大分いのちの電話 事務局 ☎ 097-537-2488
<http://oitaind.sakura.ne.jp>



豊後高田市 長崎鼻 菜の花(花ことば:快活・明るさ・豊かさ) (撮影 富田 吉俊 氏)

「そばにいる」こと

大分大学福祉健康科学部心理学コース 准教授 河野 伸子

長く続くコロナ禍により、大学の授業は対面からオンライン形式が大幅に増えた。録画配信も可能となり、時間と場所を共有しなくても、情報が伝達できるようになった。登学せずに好きな時に受講できることは、教育の幅を広げ、便利にも思えるが、一方で、時間と場所を共有して、ただ「そばにいる」ことが難しくなっているのではないかと感じる。

最近公表された「令和2年度 大学における死亡学生実態調査・自殺対策実施状況調査」では、令和2年度の学生・大学院生の死亡率が、前年度と比較して学生・大学院生ともに増加したこと、警察統計による「大学生」の自殺者数も増加したことが報告された。

精神科医の中井久夫は、阪神淡路大震災の際に駆け付けた救援者たちについて「存在してくれること、そばにいてくれることが最大の価値である」(『中井久夫集5 1994-1996』より)と述べた。関心をもってそばにいてくれる人がいると感じられることが、ギリギリのところにいる人の支えになることもあるだろう。そばにいて、様子を察して、声をかけるといったことが難しくなっている今、オンライン上でも「そばにいる」ということが伝わるようにするためにはどうしたらよいか、模索する日々である。

4月、また新たな学生たちを迎え入れる。

(出典は以下の通りです)

- ・文部科学省「令和2年度 大学における死亡学生実態調査・自殺対策実施状況調査報告書」
https://www.mext.go.jp/content/20220224-mext_gakushi01-000020503_2.pdf
- ・中井久夫集5 1994-1996 執筆過程の生理学 みすず書房 2018年

(社会福祉法人大分いのちの電話 養成講座講師)

本通信誌は、



共同募金配分金により発行しました。

演題 「三味線と生きる

～人生の絶望から救ってくれた母の一言」

新潟市を拠点に、日本全国及び海外で活動する津軽三味線奏者
講師 小林 史佳氏



演奏① 津軽よされ節 津軽の三つ物のひとつ

講演はまず、三味線の演奏から始まった。史佳氏のご挨拶の中で、寒さの厳しい新潟から大分入りした時、「大分は、真夏だ!」「住みたいくらいだ」と思ったと、大分の第一印象を話された。三味線の演奏を間に挟みながら、史佳氏は三味線プレイヤーとして今に至るまでのご自身の体験についてスライドを提示しながら語られ、お母様の高橋竹育さんは母親の立場から、当時の心境などを聞かせてくださった。

○三味線との出会い

〈三味線を奏でる母親を見ている赤ちゃんの史佳氏のスライド写真〉

史佳氏にとって、まさに三味線の音色が子守唄がわりだった。ここで、お母様の竹育さんを紹介され、新潟竹山会の名取を襲名した時の課題曲を親子演奏。

演奏② 綜合曲

三味線を始めたものの、実は三味線が大嫌いだった史佳氏は受け身でやっており、小、中、高校はバスケットボールに夢中だった。

○順調な人生

新潟の高校から京都の立命館大学に進学し、希望どおりの大手通信会社に就職。システムエンジニアとしてパソコンでネットワークを構築する仕事に就き、頑張りが評価され、本社勤務となった。数億円という規模のプロジェクトを任されるほどとなり、このまま大きな挫折もなく順調に進むと思われたが、ここから人生が一転し始めていくこととなる。

1997年に入社した会社は、2年後に分社化することになり、大阪の西日本本社の技術部に配属される。するとまわりの同僚は優秀過ぎて、仕事についていけなくなる。例えると、算数はできていたけど、数学になったら全く解けなくなったというように、自分は頭が悪くなったと感じ、仕事が全然分からなくなってしまった。本社に転勤になってから様子がおかしくなっていき、自分の能力に限界を感じ始め、悩みに悩む。

○新潟の母が異変に気づく

(竹育さんの話)

就職が難しい時期に希望通りの会社に就職できて、みんなで大喜びしていた。おいしいものを食べさせてやりたいと毎日のように送ると最初の頃は、「おいしいよ」と電話が来ていたのに、それが急に来なくなった。たまたま電話をかけてもうるさそうにし、そのうちに電話にも出なくなった。ようやく電話に出ても、いつもと受け答えが違う。なにかがおかしい??? 胸騒ぎがする。母親の直感で居てもたってもいられなくなり、休んだこともない三味線教室を休んで大阪へ飛んでいった。その時の息子の顔つきに驚いた。母に気

をつかって一見普通に振る舞っているが、どこか目の輝きがおかしい…。このままでは変なことをしないかと、新潟に戻っても気がかりの毎日であった。

○心療内科を受診

そんな中、史佳氏は心療内科を受診し、うつ病と診断されて会社を休むことになる。病休をとるということは、この会社での出世は不可能になるということであった。そして、4畳半の独身寮で引きこもりのような状態になっていく。

○うつ病の進行

それまで悠々と出勤していたのにできなくなる。人と会いたくない。今までできていたこと、食事や歯磨き、入浴などの日常生活ができなくなっていった。仕事を離れ、新潟に帰ってみるが、解決策がなかなか見つからない。

○死にたい

1999年の夏前頃まで、どうしたらいいのかわからず、ずっと心が苦しくて、暗闇の中に居た。とにかくうつ病は心が苦しい。薬を飲んだりもするが、とても苦しい。人生のどん底にいた史佳氏がその時考えていたことは、「死にたい」

この時期はこれしか考えられなかった。

○大きなキッカケ 電話口での「母の一言」

そんな絶望の史佳氏を救うきっかけとなったのが、新潟からの母の一本の電話だった。(竹育さんの話)

それは息子がSOSを送ってくれたからできたことで、その時は私の電話に出てくれてよかったと思った。何が何でも新潟に戻すことを考え、「もうゼロになって新潟に戻ってきなさい」と言った。息子を助けるにはこれしかないと思った。電話口で必死だった。

母の一言に救われ、少し楽になった史佳氏は、すべてを清算して新潟へ戻る決意をした。その時は、ただ会社を辞めたい、人生をリセットしたい、その思いで新潟へ戻ろうと思った

だけで、三味線をしようと思ったわけではなかった。

演奏③ 津軽あいや節

竹育さんが大切に弾いている曲を親子演奏

○全てを清算して

最後の出社の朝、本社へ向かう途中の淀川の橋の上で足が止まった。そこで目に留まったのは淀川沿いのホームレスの方の光景だった。普通にご飯を食べ、洗濯をし、犬と戯れる姿は、退職届をポケットに入れ、人生が終わったと思っている自分にはとても輝いて見えた。その光景は、今でも頭に残っている。人間らしい生活をするということはどういうことかを考える時に、あの姿は自分にとって人生の根源となっている。

演奏④ 津軽じょんから節 津軽三味線の代名詞

※親子の息の合った圧巻の演奏に乗せられ、途中から会場も手拍子で参加

○運命的な再会

2000年に新潟に戻ってきたが、何もすることがない。そんな史佳氏を見かねて、竹育さんは「どうせすることがないなら、三味線に触ってみたら」と声をかける。暇だからと触ってみると、手が勝手に動いた。嫌いだった三味線なのに、ずっと触っていなかったのに、手だけが動いたことは衝撃だった。初めて三味線と出会えた気がした。それからは三味線にのめり込んでいくこととなり、22年経った。今では国内だけでなく海外でも演奏するようになった。

挫折があったからこそ、いろんなことを前向きにとらえられるようになった。三味線が自分を立ち直らせてくれた。あの母の一言が自分を救ってくれた。

(ここで、昨年のカーネギーホールでの公演のNHK ニュース映像を紹介)

2019年にはじめてニューヨークで公演し、これからもっと世界で演奏しようと思っていた矢先に、コロナの流行で厳しい2年間

となったが、思ったより乗り越えられた。この2年間ですごくタフになったし、成長できたと思う。みんなに平等にふりかかった大変な時代だが、だからこそ人との関わり合いが大事。

4年前の新潟でのいのちの電話の全国大会からの縁で、各地のいのちの電話でも講演をさせてもらうようになったが、これからも三味線プレイヤーとして活動を続けていきたい。今回は大分いのちの電話に来られて良かった。

今悩んでいる人は多いと思うが、うつ病時代の自分があったからこそ今があると思っ
ているから、今悩んでいることは決して無駄にならない。その時間はすごく大事だ。

(竹育さんからのメッセージ)

- ・いのちより大切なものはない
- ・SOSに気づいてあげてほしい
- ・長いトンネルの先には必ず光が射す
- ・人生、途中で休憩も必要
- ・あまり気を使かいすぎず、たまには本気で怒ってぶつかって欲しい

○好きな言葉

如実知自身

→本当の自分の姿を知るという弘法大師の教え
艱難辛苦、汝を玉にす

→人間は、苦勞困難を乗り越えて、立派な人間になる

史佳氏も竹育さんも、「いのちの電話」の重要性と必要性も話され、また大会開催までの労いと、気持ちよく演奏ができたことへの感謝の言葉を頂いた。

それまで高橋竹秀の名で活動していたが、2003年に本名の小林史佳に戻り、芸名に頼らず生きていこうという覚悟をもって作ったオリジナル曲を最後に演奏。

今に至るまでの史佳氏の思いを込めたメッセージ入りのスライド映像と共に弾く史佳氏の三味線の音色に会場は魅了されながら、講演は終了した。

(現在は、史佳 Fumiyoshi の名で活動中 YouTube も開設)

演奏⑤ Roots - tabibito -

新潟の吹雪の中をただ歩く旅人をイメージして作曲

史佳 Fumiyoshi の生きることば
一段ずつ のぼりましょう。

止まってもいい。

でも燦々と降りそそぐ 太陽を感じて欲しい。

ちょっと疲れたら 立ち止まって

空気をゆっくり 吸い込めばいい。

大地のリズムに 耳を澄ましてみればいい。

太陽に 森に 川に 自然に 地球に

恋をしよう!

物事は表裏一体 表があれば裏もある

朝がくれば夜もくる 光が射せば影ができる

男がいれば女もいる

でも日本人の感覚には その[間]も多様にある

三味線の音楽は ドレミでは語れない

間[ま] ゆらぎ グラデーション

無限の音 それぞれのハーモニー

飛ぶんだ!!

誰かと比べなくていい。

自分の飛べる高さで飛ぶんだ!!

バツも × 見方をかえれば プラス +

たまには道を逸れてみる。

大丈夫 迷ったらまた戻ってくればいい。

計算し尽くされた 楽譜の音楽もいい。

でもふと口ずさむ 鼻歌もいい。

どんな音色も あなたです。

未来は白い楽譜 好きな音色を奏でよう!!

上手くいかないときもある。

でもビックリするような音が出ることもある。

失敗があるから 成功もある。

その間もある。

必要なのは、歩み出だす勇氣。

なにが起こるかわからない

ステージには魔物が棲んでいる。

だから人生という大舞台も

「決めてかからない」ことにしています。

病気になって良かった。

挫折を味わったから 解る気持ち、

できる演奏があるから!!

三味線が 心の おくすりです

講演2

演題 「必要とされる喜び」

～人間は必要とされることによって生きるエネルギーをもらえる～

佐伯市宇目 鷹鳥屋神社宮司 県南落語組合会長
講師 矢野 大和 氏



挨拶の中で矢野氏は、講師を依頼された時、自分が話すのは笑い話だから、いのちの電話のように生死に関わっている方の前で話す内容ではないと思ったが「笑ってエネルギーをもらえれば、相手にも元気をあげられる」と言われ、自分が必要とされると引受けた。だからテーマを「必要とされる喜び」と決められ、いろんなエピソードを交えながら、明るく楽しい語り口で会場を笑わせながらお話し下さった。(以下講演の要約)

佐伯市宇目町という人間よりもイノシシが多い所からやってきたので方言が大好きだ。自分の思っていることを上手に伝えられ、あなたの気持ちはよく分かるよと言われてたら、人は元気になる。でも自分の思っていることを上手に伝えられなくて誤解を招いた時、そんなつもりで言ったのではないのにとストレスがたまる。だから自分にとって思っていることを人に伝えやすいのは大分弁である。

大分弁で一番いいのは、仲間を許すという方言。グループや団体などでは自分と意見が違う人がいる、当然の事でそんな時には許すというのが一番いいのだが、なかなか難しい。大分弁には言葉の力がある。その人がいなく

なった時に、こっそり聞こえないように言うと罪がなくて、円満解決する言葉。それは、「あんしはな一、あげえあんのじゃー」

例えば、会に遅れてきた人が頭を下げずにドカッと前に座った時とかに使う。最高の言葉、全部許している。時には許すことも大切だ。

相対して相手を元気にする動作がある。人の話を聞く時は、とりあえずうなづくことだ。「そんな考えもありますね」「そんな考えもあってもいいですね」とうなづくことで相手は元気になる。それは承認されていると思うからだ。とりあえずうなづく、その後で自分の考えを言うと意見交換が活発になる。

☆矢野氏と息子さんとのエピソード

父——人の話を聞くときは、「そんな考えもありますね」と、とりあえずうなづくよ。

息子—お父さん、そんな聞き方を「肯定から入る」と言うんよ。

父——おまえ、よーそげな難しい言葉、知っちょんのー。

息子—学校に行きよんけん。学校行く時、いつも校庭（肯定）から入りよんけん。

8年前から和服生活をしている。インターネットで10着まとめて3,500円で購入。安くていいが、人が着た古着だから寸法が合わない。ここで活躍、必要とされるのが昭和ひとけた生まれのお袋。針が持てるので、衿、丈を合わせてくれる。年寄りの有効活用だ。

そして出来上がると「でけた」と縫い直した着物と共に貯金箱が置かれる。「小銭はいらんぞ」の張り紙付。そこで500円入れる。結構お金が貯まると、孫に背広を買ってやる。

孫からは「おばあちゃん、ありがとう」の言葉。言葉とお金が相手を元気にする。特に言葉。自分は500円と評価し、息子はありがとうの言葉で評価。「ありがとう」という言葉で人はエネルギーを貯めているのではと思う。

お袋の愚痴一年寄りが迷惑をかけよん—これが高齢化問題だ。年寄りが増えて困った、年寄りが役に立たないと言っている。年寄りに罪はない、ただ長生きをただけ。本当は若い人たちが子どもを生みにくい環境になっているだけ。でも年寄りが多いというのも現実だ。この有効活用を考えていかななくてはならない。お袋の有効活用は、何ととっても戦前の教育を受けているので、生きる力がある、我慢する力があるということ。これを息子にもと思い、中3まで一緒の部屋に寝かせた。すると、いろんな言葉を教えてくれた。

☆おばあちゃんの名言

……昔は賞味期限なんかなかった。

鼻で嗅ぐ力があつた。食べられるかどうかは自分で判断した。今は賞味期限があることによって、食べ物の1割5分は食べられるのに捨てられている。

していい時、しては悪い時が分からないでどうするかというのが生きる力。分岐点で、こっちに行くか、あっちに行くか、我々は判断しながら生きている。皆さん方も強い口調で言わなければならない時もあるし、また黙って何分も聞かなといけない時もある。

時と場合で態度が変わるというのも生きる力だと思う。例えば、ここに市長が来れば、40度から60度で頭を下げて挨拶をする。でも叔母なら、「おー、元気しょんかえ」と手を振るだけ。これは差別ではなく、信頼関係の有無。信頼関係の度合いを読み取る力が優先され、時と場合で態度を変えながら人間関係を保っているのではと思っている。元気の源は存在感でなく、必要とされているかどうかである。皆さんは、電話をかけてく

る方へエネルギーをあげなくてはいけない仕事だから、どこからかエネルギーをもらわないと、吸い取られて皆さんの方が倒れてしまう。

☆ある日の矢野家のエピソード

息子——あれ、おかあさんは？

父————買い物に行った。

息子——おばあちゃんもおらんの？じゃあ、家に誰もおらん—。

妻が娘とコロッケを作っていると、1個落ちた。その時、娘が発した言葉——お父さんに出したら！

妻——あんたじゃね—とできん。生ごみ持っていってくれん？!

矢野氏——うちに俺の存在はね—の—家族——お父さん、おらんと困るよ。
(この言葉に矢野氏、元気をもらおう)

言葉にはエネルギーがある。「おらんと困る」と誰かに言われたら元気になる。まず夫婦、家族、友だちや組織、志を同じくする人たちからエネルギーがもらえる。落語組合はそれで40年も続いている。校内弁論大会に出る娘に小話を教えてと頼まれ、必要とされたらエネルギーが出た。このように、誰かからエネルギーをもらい、そのエネルギーを保存して誰かにあげる。

いのちの電話は言葉で相手にエネルギーをあげている。電話をかけてくるだけで救われているのではないか。まだ生きようとする力があるから、誰かに頼ろうとしているのだと思う。そんな力もない人は、どこかで実行してしまっているのでは。すごくギリギリのところが必要とされていると思う。

金曜日の毎朝、ラジオ番組をもっているが、そこでは日本のいいところを話している。「一を言えば十わかる」—いわゆる村度が日本人にはできる。一つ言った言葉を頭の中で想像して分かつようとする。わずか十七文字で相

手が分かるように想像して作っている。俳句や川柳が分かる民族だ。

「笑点」—この番組は付度を利用している。すべては喋らず、あとは見た人が想像してというオチがあるから、一体感ができやすく長寿番組になっている。笑うと元気になってエネルギーがもらえる。笑うとガンにも罹りにくいそうだ。いのちの電話でも相手が「クスッ」と少しでも笑ってくれたら、そこからきっかけができるのではなかろうか。笑うということは実に大切だが、余裕がないとできない。笑ってくれれば、相手の心に一步近づける。

海外の人から、日本は台風や地震や津波など自然災害が多いのに、よく復興できるなど言われることがある。自然現象は神様の仕業だから、それに勝とうとは思わない。だから災害がいつばい来ても「しょうがねーわ」と我慢する。自然現象に文句を言わない国だ。そして災害が去ると、「さあ復興するぞ」と「今日より明日、明日よりあさって」と前より良いものをつくろうとする。よりよくするために学習する、教育する、最後の最後まで勉強

する民族だ。今日の講演もその生涯学習の一コマと思ってもらえれば幸いだ。

自分の事をちょっと犠牲にして誰かのために尽そうとする心がある。災害の時などにお年寄りや障がいのある人を気遣ったり、物資を優先的に渡したりしている姿が見られる。誰かが喜んでくれたら自分も嬉しいというエネルギーをもらおう。だから日本では略奪など起こらない。日本はいい国だ、もう一度見直してみないかとラジオでも話している。

いのちの電話は、そんなエネルギーのやりとりをしていると思うから胸を張って欲しい。

皆さん方は間違いなく社会の仕組みから必要とされているが、自分は必要とされていないと思っている人がたくさんいる。そんな人が電話をかけてくる。聴いてあげる人が一人でもいることは救いだ。電話でうなずいても相手には見えないが、聴くことで相手にエネルギーをあげられる。相手から「あなたのおかげで元気になったよ」と言われれば、皆さん方もエネルギーをもらって元気になるだろう。

(矢野さんは「日本の心」というCDを作成)

いのちの電話にご支援をお願いします。

「大分のちの電話」を維持していくためには、電話センターの管理費や、電話相談員の養成・研修費、広報費等多額の経費を必要としております。

これらの資金は、多くの機関、団体、企業、個人の方々のご援助により支えられています。

どうかこの活動をこれからも継続していくため、心ある皆様のご協力をお願いします。



1 賛助会員(費)

毎年決まった額(下記参考)を支援して頂く会員です。

個人

年額 3,000円

年額 5,000円

年額 10,000円

法人

年額 10,000円

〃

100,000円



2 寄付金

はご随意です。

いつでもお受けします。



※お振り込みは、下記の口座へお願いします。

口座名義 「社会福祉法人 大分のちの電話」

郵便振替 01990-9-24561

大分銀行 大分駅前支店 普通預金357645

税制の優遇措置があります

訃 報

小代美先生、やすらかに…

いのちの電話相談員スーパーバイザーをされておられました、どんぐりの杜精神科医の竹内小代美先生が、昨年末、不慮の事故により急逝されました。先生のご逝去を悼み謹んでお悔やみ申し上げます。

先生のお人柄はもとより、人間味あふれるスーパービジョンに心酔される多くの相談員を代表して、先生から直接スーパービジョンを受けてこられた方々による追悼のメッセージを紹介させていただきます。

先生の突然の訃報を知った時は全く信じられず、ただただ目の前のニュースを見つめていました。「また来月、学びましょうね。楽しみに待っているわ」と、言った言葉を聞いたばかりでしたので。

先生はこちらが質問をすると決まって「あなたはと思う？ どう考える？ どうしてそのような対応したの？」とまずは質問者の考え、想い、感じたことを聞きとめられてから、ご自分の見解を述べられます。私は先生との学びの中で、自分の考えをもち、それを伝えることの大切さを非常に深く知ることとなりました。

先生からの学びの中で、最も印象に残っている言葉は“リスペクト”「ありのままの相手に敬意を持ち、尊重して話を聴くこと」です。この気持ちは大前提にあることで、一語一語をどのように受容と共感の言葉によって、どう返していくかが変わり、主体が相談者となり、それによって相談者が解決の道を作り出すのだと話されていました。

まだまだ先生と共に学び、語り合いたかった。これからもっと先生から「生きた学び」をうけ、それを実践していきたくったと思っています。

短い期間ではありましたが、先生から受け取ったものを胸に、進んでいきたいと思えます。

相談員として初めて受けた電話は、自分でも信じられないほど緊張してしまい、コーラーさんへの申し訳ない気持ちと無力感で落ち込みました。

「共感することの大切さ」 竹内先生が繰り返し教えて下さった言葉です。具体的に「共感している」と相手に伝わる心のこもった言葉や表現方法を、例を挙げてみせてくださり、また、励ましても下さいました。そして精神科医というお立場で、病気に関する面からも電話相談に必要な知識をたくさん与えて下さいました。また、いつも「その人らしさ」を褒めて下さったうえでの確かなアドバイスや質問をされながら、全員で理解を深めていくといった充実した時間を共有することが出来ました。

竹内先生の下で、同期の皆さんと真剣に取り組んだ時間は、短いながら大切な経験です。あの時間を忘れず、教えて下さったことをこれからも生かせるよう学び続けようと思います。

竹内先生との出会いは、市の傾聴講座以来の二度目でした。月日を重ね渋みを増した先生とのスーパービジョンは毎週楽しみの連続でした。班のメンバーは、分からない事があるとすぐ質問し、先生の投げかけも、どんどん増え、深まっていきました。先生は「あなた達いいわぁ、頼もしい」とキラキラした笑顔で嬉しそうでした。毎回、出る宿題も日常に活かせるものばかりでした。最後には、修了記念として、先生の著作を頂き、ありがたい限りでした。

先生と直に話せるフランクな会が欲しいなと話していた矢先、訃報が飛び込んできました。もっとたくさんのお話を吸収して教わりたかった。先生の前を通るとき「こんな時、先生ならどう答えますか？」とつぶやいてしまいます。

この貴重な出会いを「あなたならどうする？」という竹内先生からのメッセージだと受けとめ、今後の電話活動に活かしていきたいと思っています。

私が初めて竹内先生にお目にかかったのは、カウンセリング講習会の時でした。登壇された姿は、細く華奢な印象でしたが、お話される内容は、そのお姿からは想像もつかないほどの多彩な経歴と、医師としての経験や知識を物腰柔らからかな口調で語って下さいました。何と努力家で芯の強い方なのだろうかと驚きと尊敬の念を抱きました。

その後のスーパービジョンでのアドバイスの中で先生は、自分のペースで聴くのではなく、相手のペースで聴く姿勢や相手の気持ちに寄り添う、共感や傾聴の大切さを特によく分かりやすく教えて下さいました。

まだこれからも先生から学びたいことがたくさんあり、先生ご自身ももっと精力的に活動されたかったのではと思いますと、誠に残念でなりません。

ご援助ありがとうございます

2021年11月18日より2022年3月26日までに、次の方々から合計3,936,395円ご支援頂きました。永きにわたり変わることなく支えて下さっている皆様、そしてご縁あり新たにご浄財をお寄せくださいました個人や法人の皆さま、コロナ禍の厳しい情勢にも関わりませず、温かい手を差し伸べて頂き、衷心より感謝申し上げます。（*は新規会員になって下さった方です）（敬称略 50 順）

賛助会員 〈個人の部 17件 118,000円〉

★ 20,000 円 竹長 イツ子	高村 久美香 中里 伸子	春山 千恵子 矢田 晴祥	生田 次郎 菅 ヒトミ
★ 10,000 円 内野 順雄 * 宇野 真理子 大西 房子	★ 5,000 円 藤井 涼一 阿部 真理 岩尾 孝一郎	★ 3,000 円 大石 桂二 小野 伸子 鹿嶋 恵美子	日隈 由美子

賛助会員 〈団体の部 21件 425,000円〉

★ 50,000 円 社会医療法人財団 天心堂 NTT西日本九州大分支店 日本キリスト教団大分教会	大分教区大海組仏教婦人会連盟 株式会社久光大分 (株)マイダスコミュニケーション 佐伯コミュニケーションズ 三好泌尿器科 (有)上岡調剤薬局	圓行寺 大分友の会 学校法人渕野学園富士見ヶ丘幼稚園 光国寺和光仏教婦人会 社会福祉法人 別福会 住友化学(株)大分工場
★ 30,000 円 * 新成建設株式会社	★ 10,000 円 (医)鳴海クリニック 医療法人 山下循環器科内科	★ 5,000 円 日本キリスト教団三重教会
★ 20,000 円 (医)起愛会 宇佐病院 医療法人真浄会 寺町クリニック		

寄付金 〈個人の部 24件 182,350円〉

★ 50,000 円 中里 伸子	★ 12,000 円 板井 ケイスケ	松原 美保 山村 寿孝氏	岡田 一泰 池 有克 菅 敏子 高橋 サヨ子 筑波 ヨシ子 布谷 吉範 疋田 昂平 野 弘章	★ 350 円 田村 遼
★ 30,000 円 無名氏	★ 10,000 円 大隈 紘子 中井 幸恵 広津留 慶朗	★ 2,000 円 大石 桂二 梶原 秀子		
★ 20,000 円 長久寺 徳純	★ 3,000 円 増田 信子	★ 1,000 円 阿部 慶太		
★ 15,000 円 金子 進之助				

寄付金 〈団体の部 10件 152,545円〉

★ 30,000 円 大分子ども病院 株式会社 菊池電気工業	★ 12,000 円 扇田保育園	★ 3,000 円 日本基督教団犬飼教会 犬飼幼稚園
★ 22,545 円 大分県自殺対策講演会募金箱	★ 10,000 円 愛隣幼稚園	
★ 15,000 円 日本バプテスト連盟大分キリスト教会	大分聖公会 児童養護施設 光の園職員一同 日本福音ルーテル大分教会女性の集い	

助成金 〈3件 2,955,000円〉

★ 2,355,000 円 日本財団
★ 500,000 円 大分県共同募金会
★ 100,000 円 (財) 毎日新聞西部社会事業団

物品寄附

(株) SYSKEN 様より Eva Water (イオン交換法次亜塩素酸水) を頂きました。
--

バザーへのご寄付の御礼

コロナ禍の中、残念ながら2年に渡ってバザーを中止せざるを得ませんでした。2年も続けて、バザーに代わる寄付の名目でご協力をお願いしたにも関わらず本当にたくさんの皆さま方からご支援ご協力を頂きました。心より厚く御礼申し上げます。

当機関誌 108号に続いて、ご協力くださった皆様方に御礼申し上げます。

2021年度 バザー協力者 〈個人の部 11名 73,500円〉

★ 20,000円 藤 並 大 智	★ 5,000円 須 賀 美代子	★ 3,000円 高 村 久美香
★ 10,000円 吉 田 啓 治	無 名 氏	★ 1,000円 板 倉 みち子
立 見 眞 理	カ イ 様	高 橋 健 次
阿 部 正 威	★ 3,500円 河 野 正 子	

2021年度 バザー協力者 〈団体の部 2件 30,000円〉

★20,000円 金剛宝戒寺	★10,000円 株式会社ほけんの110番
-------------------	--------------------------

物品寄附

大谷派 清光寺 HIヒロセ	宇 野 眞理子 衛 藤 和 得 丸 豊 子	平 井 ミチ子 宮 添 邦 子 他 相談員 31名
------------------	-----------------------------	---------------------------------

大分いのちの電話日誌

12月 1日 大分いのちの電話通信 第108号 発行	2月 15日 第37期電話相談員認定
9日 大分県指導監査	16日 第38期電話相談員養成講座後期課程A修了式
10日 フリーダイヤル自殺予防いのちの電話	16日 大分市民こころといのちを守る自殺対策 行動計画策定推進検討委員会
15日 第2回 スーパーバイザー会	27日 令和3年度第2回自殺対策講演会 基調講演 「三味線と生きる～人生の絶望から救って くれた母の一言」 講師 新潟を拠点に、日本全国及び 海外で活動する津軽三味線奏者 小林 史佳 氏
26日 第4回 全体研修会 演題 「DVの基礎知識 当事者の支援&心理について」 講師 NPOえばの会代表 精神保健福祉士・社会福祉士 吉本 寛子 氏	2部講演 「必要とされる喜び～人間は必要とされること によって生きるエネルギーをもらえる」 講師 佐伯市宇目 鷹鳥屋神社宮司 県南落語組合会長 矢野 大和 氏
27日 連盟事業委員Web会議	
1月 5日 第38期電話相談員養成講座及び 第16回カウンセリング公開講座 受講生募集受付開始	3月 8日 第2回理事会
10日 フリーダイヤル自殺予防いのちの電話	10日 フリーダイヤル自殺予防いのちの電話
12日 第38期スーパービジョン開始	23日 第2回評議員会
26日 第36期生 電話相談員認定式	24日 玖珠町ゲートキーパー養成講座 講演 勝谷事務局長
29日 連盟事業委員Web会議	
2月 10日 フリーダイヤル自殺予防いのちの電話	4月 1日 大分いのちの電話通信 第109号 発行

事務局からのお知らせ

この3月末をもちまして事務局長が交代いたします。私勝谷は、事務局長として11年間、その前の事務局次長として2年間、皆様のご協力・ご支援をいただいて、勤め上げることができました。大変お世話になりました。なにぶん力不足で、皆様方には何かとご迷惑をおかけしました。今後は、雲和子理事が努めます。大分いのちの電話は、まだまだ課題があり、これからも皆様方のお力添えが必要です。これまでと同様に、いやこれまで以上に、ご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

大分いのちの電話事務局長 勝谷 齊

編集後記

大分県の蔓延防止等重点措置延長もなくなった2月末、無事に大分県自殺対策講演会が開催できたのは大分いのちの電話にとって明るいニュースでした。

悲しい出来事もありました。元相談員のMさんが2月7日に82歳で亡くなりました。

彼女は長年にわたり相談活動に携わっておられましたが、ご主人の介護のため相談員を辞退されました。その後も匿名の高額のご寄附をはじめ、バザーの季節には近隣の方に声をかけてたくさんの品物を集めてくださるなど、病床にあった時も、いつもいのちの電話を気にかけていただきました。本当にありがとうございました。ご冥福をお祈りいたします。

Mさんのご葬儀でいただいた息子さんからのあいさつ文の一部を紹介します。

「努力がしっかりと花開いた実り多き人生でした」

(前略)家庭では患っていた伴侶を一心に支え、地域ではいのちの電話の活動に尽力し…ひたむきな歩みを辿るほどに頭の下がる想いがします。足早に訪れた別れが悔やまれますが、この先母がゆっくり身体を休められるのならそれ以上の慰めはありません。良き面影にならない家族皆で手を取り合ってまいります。どうか何も心配せず、先に待つ父のもとでくつろいでほしいと願っております。「お母さんお疲れさまでした」～息子達より

〈編集委員〉

「自殺予防いのちの電話」は
悩み苦しんでいる人の“こころ”が和らぎ
希望と勇気をもって
再び生きていかれることを願い
開設されました。

日本いのちの電話連盟
<https://www.inochinodenwa.org>
主催：一般社団法人 日本いのちの電話連盟(厚生労働省 補助事業)



誰にも言えない気持ち、
聴かせてください。

いのちの電話

自殺予防

なやみ こころ

0120-783-556

フリーダイヤル(無料)で電話相談を受け付けています。

※毎日16:00～21:00まで ※毎月10日は8:00～翌11日8:00まで

※IP電話でのご利用は毎月10日～翌11日のみになります。05-6834-7830(有料)におかけください。
0570-783-556 ナビダイヤル(有料)は毎日行っています。詳しくはホームページ等に掲載しています。